

13. 事務組織

目標

1. 実践的な教育研究活動を支援するため、事務組織の機能強化に努める。
2. 大学経営の高度化・複雑化に対応するため、事務職員の職能開発（SD）に努める。

「現状及び点検・評価」

- (1) 本学の事務組織は、平成 17 年 4 月 1 日に大学開学と同時に大学経営会議室に事務局を置くこととし、法人本部機能と大学事務局を兼務する組織としている。事務組織は開学以降、事務局に、企画部、教務部、総務人事部、経理財務部、学生支援センター及び入試広報部を置き、この外、図書館事務及び大学院事務室をもって構成してきたが、研究協力等の課題に組織的かつ積極的に取り組むため、平成 21 年 6 月から、新たに、研究協力等推進部を設置した。事務組織全体の事務職員は現在 43 名を配置している。
- (2) 本学は、五反田キャンパスと世田谷キャンパスに分れており、事務組織が分散されることから両キャンパスにおいては学内 LAN を整備し、デスクネットを活用して全教職員のスケジュール管理、各種会議の通知、各種資料の作成・送付・保存、学生に対する情報伝達等を行うなど事務の効率化及び能率化に努めている。また、夏季期間等を除き、毎日、五反田キャンパスと世田谷キャンパスを 1 日 1 回往復するスクールバスを運行し、教職員・学生の利用の便を図るとともに、各種文書等の授受等の事務連絡に活用するなど効率的な運用を図っている。
- (3) 事務職員については、大学の管理運営に携わるとともに、実践的な教育研究活動の支援を行う重要な役割を担っており、大学経営をめぐる課題が高度化・複雑化する中で、職員の職能開発（スタッフ・デベロップメント（SD））を行うことが必要不可欠となっていることから、本学では、平成 18 年度から年 2 回（9 月及び 3 月の各 1 日）、全事務職員を一同に集め、事務職員研修会を実施している。
- (4) この研修会では高等教育を取り巻く状況、本学が取り組んでいる課題及び検討状況等について、理事長・大学経営会議室長・各部等及び必要に応じて本学教員が講師として説明を行うとともに、意見交換を行っており、職員 1 人 1 人が課題等を自らのこととしてとらえ、仕事に反映するとしていることから自己啓発の有意義な機会となっていることは評価できる。
- (5) また、本学の教育研究の実施内容について理解を深めるため、学長・各学科長等から教育研究の概要に関する説明を聞き、意見交換を行う研修会を適宜開催しているが、職能開発に資する取り組みとなっている。
- (6) なお、事務局内の意見疎通を図ることを目的として、原則として月 2 回、事務局各部長等をメンバーとする部長会を開催し、学科長会議・大学経営会議・理事会等の審議事項・

報告事項及び事務局各部等における懸案事項等について連絡調整及び意見交換を行っており、円滑な大学運営を図っている。

「今後の改善・改革に向けた方策」

事務職員の資質の向上を図るため、外部機関主催の諸会議及び研修事業への積極的な参加を促すとともに職能開発及び自己啓発に資する事務職員研修会の一層の充実を図ることとする。